

前回及び現地調査の ふりかえり

前回のふりかえり

●前回の検討委員会及び現地調査

3月17日(火) 11:00～ 現地調査①

- ・アドバイザー:久保田善明 准教授
- ・検討会委員:渡辺委員長、深町委員
- ・事務局(県、市、コンサルタント)

14:00～ 第3回検討委員会

- ・アドバイザー:久保田善明 准教授

【アドバイザー】



久保田善明 准教授

京都大学大学院社会基盤工学専攻 景観設計学

前回のふりかえり

●星川の本風景保存の考え方について

未整備区間は極力現況を保全する
(築堤・切り下げを原則行わない)



ただし、

治水安全面については考慮する必要がある

前回のふりかえり

●星川の本風景保存の考え方について

条
件

- ① 堤防高 (H.W.L+0.6m) の確保
- ② 計画流量 (Q=60m³/sec) が
流下可能な断面の確保



2つの治水安全面の条件を満たした上で、
原風景の保全に努める

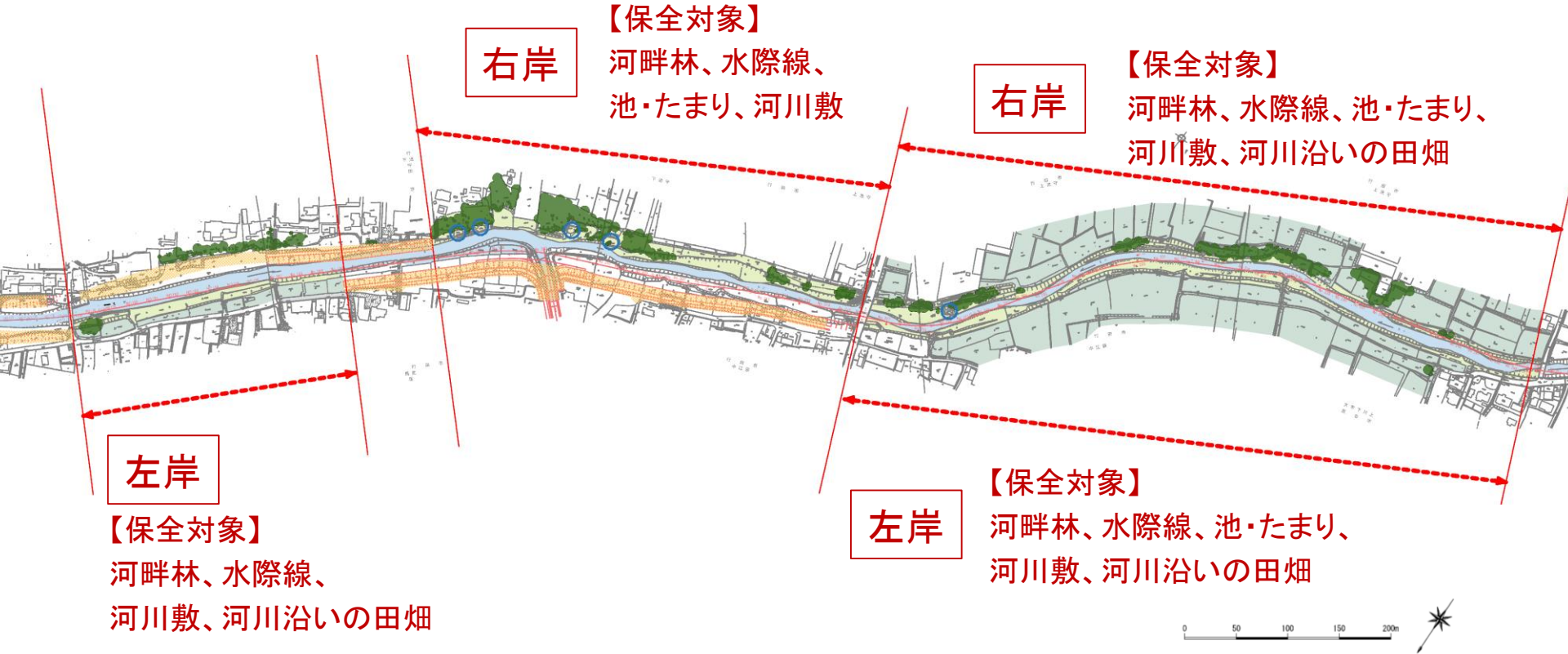
前回のふりかえり

●星川の本風景保存の考え方について

下流区間

中流区間

上流区間



【凡例】

河川流域

河畔林

整備済み区間

水際・河川敷

池・たまり

整備済み区間の築堤ライン

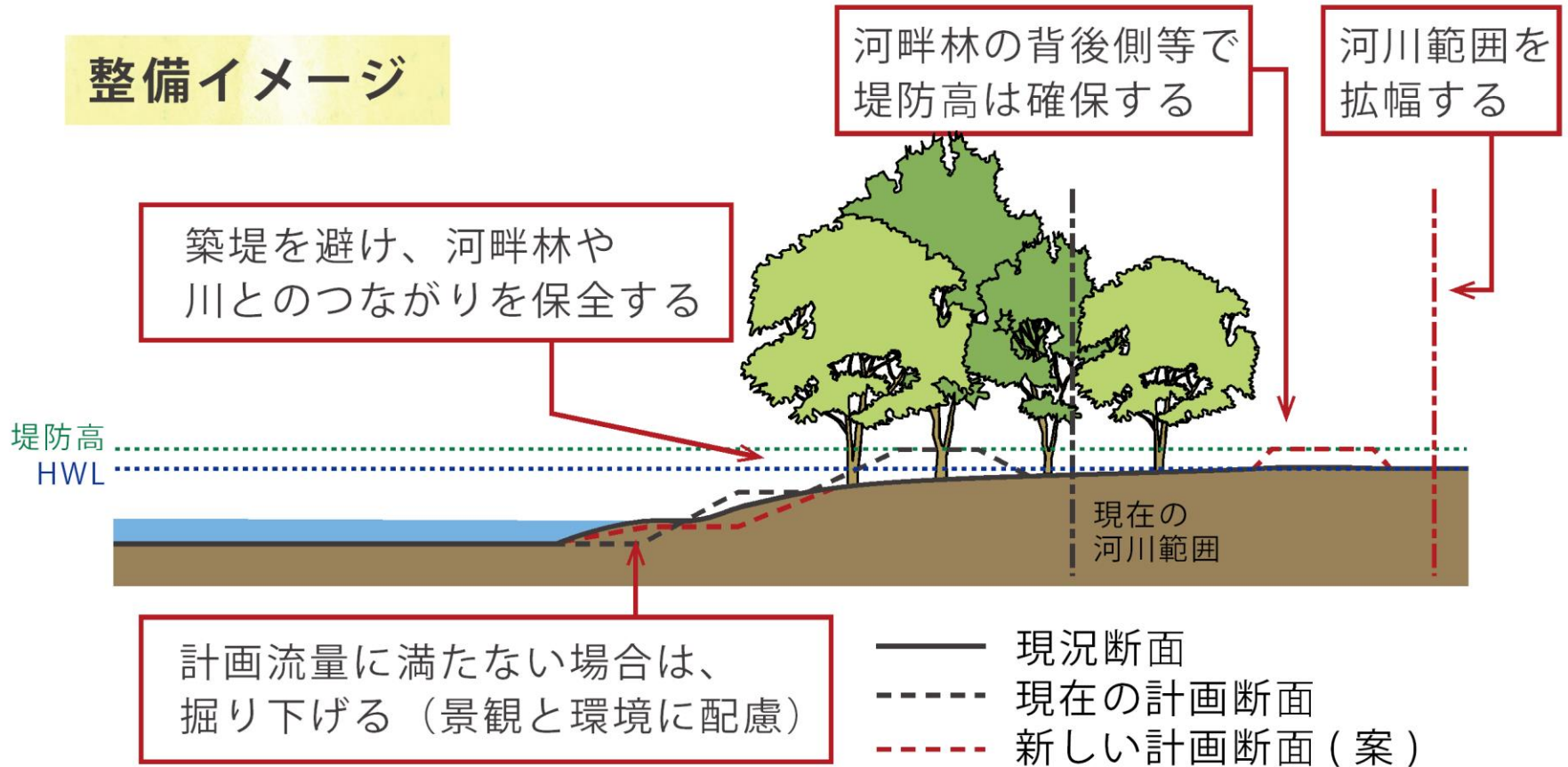
河川沿いの田畑

現在計画の河川中心線

前回のふりかえり

●星川の本風景保存の考え方について

整備イメージ



前回のふりかえり

●久保田先生からのご意見

- ・高欄のデザインはもちろんだが、高欄の波型と橋脚の位置が一体となって星川と馬見塚橋の風景の重要な要素となっている。
- ・橋の劣化や風化、河川整備の問題から補修や架け替えが必要になるとしても、どこまで今のデザインや風合いを残せるかが課題になると思う。
- ・昭和10年に作られた橋は、現在の基準は満たしておらず、表面も風化が進んでいる。橋の状態を維持して活用し続けていくためには、ある程度の補修は必要である。
- ・特例として認められれば、現状基準をある程度緩和するという可能性もある。
(例: 四万十川の沈下橋など)
- ・ただし、技術的な対策だけでなく、道路の規格や利用形態(スペック)を変える等の方法もある。まず「河川整備の考え方」と「道路の規格、利用形態の考え方」によって、それぞれどのような保全方法があるか整理した方が良い。

⇒議題Ⅱ-3で検討する。

前回のふりかえり

○委員からのご意見

- ・今後地元の方の理解と協力が必要であり、簡単ではないが、河川整備はぜひこの方針で整備を進めてほしい。
- ・既に整備されたところを再生(河畔林の復元等)をすることは可能なのか？
→ ③ 将来的な取組みとして、考えていきたい。
- ・星川沿いの河畔林はほとんどが民有地にある。維持管理等の問題もあり、伐採も進んでいる。これらをいかに残すか、工夫していただきたい。
→ ③ 市や地元と協力し、連携して保全に取り組む仕組みを作っていくことが必要。
- ・河川断面を広くすると、その分HWLが下がるような気がするが、そうではないのか。
→ ③ 上流と下流の水位によって直線的にHWLは決めるので、部分的に断面を広くしても、HWLは変わらない。

前回のふりかえり

●現地調査及び意見交換

4月10日(金) 13:00～ 現地調査②・意見交換

- ・アドバイザー:西廣淳 准教授
- ・検討会委員:渡辺委員長、深町委員、
島田委員、橋本委員、永沼委員
- ・事務局(県、市、コンサルタント)

【アドバイザー】



西廣淳 准教授

東邦大学理学部生命圏環境科学科 保全生態学

前回のふりかえり

●西廣先生からのご意見

- ・近年、世界的にも「川にもっと自由な空間を」という流れがあり、ここで議論されていることは非常に大切な発想だと思う。
- ・冬の水位に影響がなければ（高水敷を削る程度であれば）、キタミソウにはほとんど問題はないと思う。
- ・現在はやや渴き気味の牧草的な植生である。数十センチ～1メートルくらい掘削すれば、湿潤な条件となるため、川辺の生態系の面からは悪いことではない。ただし、切り下げ方については詳細な調査や継続的なモニタリングが必要である。
- ・田んぼの部分を河川用地として活用するという方針は、氾濫原湿地のような場所が確保できるので、治水面・生態面・地域活動の面などで大いに価値がある。

前回のふりかえり

●西廣先生からのご意見

- ・遊水環境の再生事業として佐賀県武雄市 松浦川の「アザメの瀬 自然再生事業」という事例がある。

⇒議題Ⅱ-1で事例紹介を行う。

- ・遊水地を整備したときにどのような恩恵があるのか、検討してほしい。

⇒議題Ⅱ-2で検討する。

前回のふりかえり

○委員からのご意見

- ・計算上は馬見塚橋が斎条堰の上げ下げにより、洪水の危険性を感じない。河川敷を掘り下げたり、川幅を広げる必要はないのではないか。
 - **事** 星川の上流域では、実際に溢水している箇所があり(H22.11.1)、上流は洪水の危険性がある。河川は流域全体を考慮し、整備していく必要がある。
- ・想定している洪水が来たときに、どのくらいの規模の遊水地を作れば、馬見塚橋にかからないくらい水位(HWL)を下げることができるのか。
 - ⇒ 議題Ⅱ-2 で検討する。